

伝統こけしのふるさと
(県別こけし産地紹介)

柴田長吉郎

6. 青森県

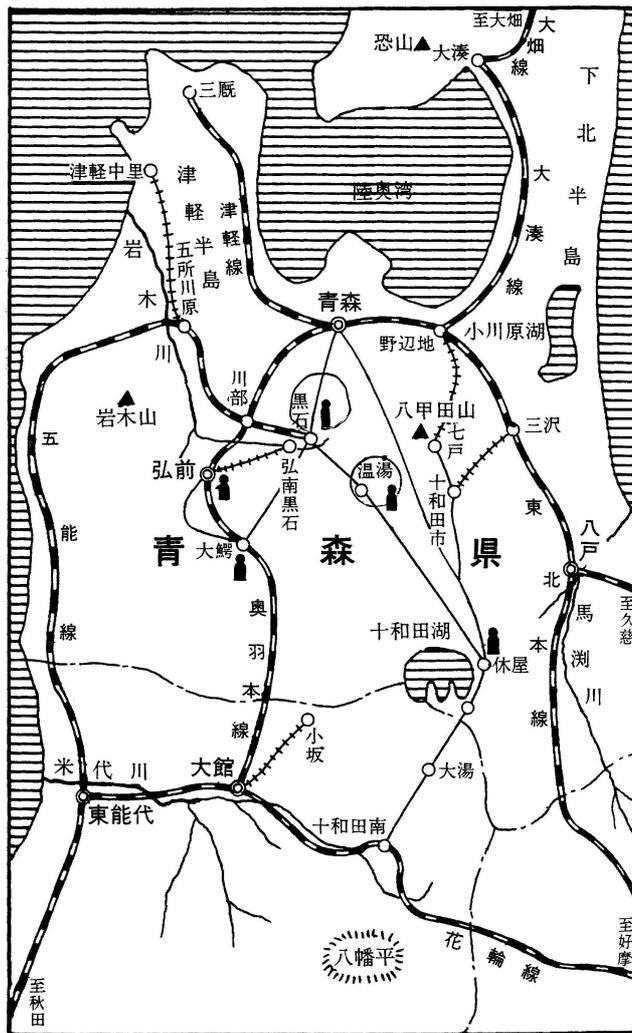
青森県の伝統こけしは、其の名のごとく津軽系が主流で、その中心地は黒石市温湯温泉と大鰐町大鰐温泉であった。旧幕時代は、温湯・大鰐それぞれに木地組合がありきびしく区別されていたが、明治以降になって両者の交流が始まり、他地方（鳴子など）よりの職人の流入の影響もあって大正期以後両者の木地業は大きい変革を受けて現在の形となった。特に大鰐では明治初期に手廻しの大車ロクロ、大正初期には二人挽の足踏ロクロとなり、これが温湯に大正中期に伝わって、水車ロクロも用いられた。このミシンの様な足ブミロクロは津軽特有のもので、他のこけし産地では手挽きの二人挽きロクロから、足ブミの一人挽きロクロに変わったが、一人挽きの足ブミロクロが大鰐で用いられたのは大正末期であり、やがて動力ロクロに変わったが、温湯では昭和14年頃からやっと動力ロクロに変わったのであった。現在では、故盛秀太郎が創案した形状と、ダルマ模様が有名となり、大鰐では後継者が少なく工人が減っている。

6.1 黒石市

温湯温泉を中心として、故盛秀太郎の孫およびその弟子たちがこけしを作っている。(字鶴泉)

黒石市には、最近民営化した津軽こけし館があり(大字袋、字富山)多くの古作津軽系銘品こけしやその他の伝統こけしが展示され、工人による実演、こけし及び民芸品などの売店もある。また、隣接して作られた伝承館には、伝承工芸品の製作販売、広い展示ホール、食堂などがあるので一見に値する。

黒石へは奥羽本線川部からJRローカル線が通じていたが廃止されてバス路線となり、現在は弘前からの弘南電鉄とバス路線のみとなっている。津軽こけし館は弘前から十和田湖へ行くバス路線の途中にあり、十和田行バスで弘前バスターミナルから約30分で行くことができる。また、落合温泉・板留温泉がこけし館の近くにあるので十和田湖方面へ行くのに便利である。



青森県こけし産地地図



津軽こけし館

黒石市はリンゴの名産地でリンゴ園が多く、市内に観光リンゴ園があって、黒石リンゴ狩りを行うことができる。また、こけし館の近くの中野紅葉山は、津軽藩時代に百種の楓を植樹して紅葉狩りの名所となって